

・雨でも休まず、273回、274回・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・定例活動 : 11月 1日 (第一日曜日) : 小原本陣の森・団地化を目指す、弁当持参  
\*ベテラン向き、担い手育成、技術向上、参加費400円、
- ・臨時活動1 : 3日 (第一火曜日) : 小原本陣祭り、適当に参加ください
- ・臨時活動2 : 6~8日 (金・土・日) 森林循環フェア、藤沢モールフィル  
\*地域との交流という大切な意味があります。
- ・定例活動 : 18日 (第三日曜日) : 若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動  
\*一般むき、参加費400円、主食・自分の汁椀、飲料水。
- .....
- \*注意1 : 初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ  
・服装 : 汚れても良い服装、着替え・滑らない靴。  
・持参 : 成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水
- \* 2 : 危険管理・救急体制 : 森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

“嵐でも休まず・・・” 活動は13年目に入る

”嵐でも休まず・・・” と言っても”台風だけ”を言う訳ではない。

活動資金の枯渇、意見の衝突による分裂。命に関わる大怪我による活動への疑問。また、意見が対立して興奮のあまり刑事事件、その後始末。NPOを利用しようとする狡猾な人物に手こずったこともある。日々、発生する活動の矛盾・困難・混乱をどう解決するか・これら、戦いの連続でもある。NPOが善意・無償の活動で、社会的に認知されたと言っても、実態はそう単純なことではない。NPO活動も一経営体でありいろんな矛盾をはらんでいる。経営能力とは、矛盾の解決能力でもある。

善意・無償の非営利活動が建前だから、これを支援しようとする団体に“魔の手”が伸びることもあるだろう。例えば、オレオレ詐欺以上に、ズル賢い団体もいる筈だ。町の安全を守るからと言って“ミカ締め料”を申請する暴力団。なんとか理事長が・億円を横領したとか、福祉を隠れ蓑にする悪もある。世界的な規模を持つ金持ちグループの支部長を自称する者から「緑のダムの名を使わせてくれたら、支援金の半分をよこす」と言ってきたこともあった。

NPO活動を悪用する輩のトバッチリは、真剣に真面目に活動している団体に来る。「NPOを支援する側」にも寸刻の油断のならない洞察力・判断力・分析力が求められる。「NPOを支援する側・受ける側」、それぞれの苦しみは、当事者にしか分からないのだ。

様々の矛盾・障害があるが、強い使命感 (mission) を持ち、時代を変革する意気に燃えるからこそ、耐え忍んで活動は。13年目に入る。



10月に入り、だいぶ涼しくなってきました。今回の活動では、午前中から午後にかけて土留めの作業を行いました。土留めは、雨が降った時に土が流されて土砂崩れなどが起きないように、間伐してある木などを水の流れる方向と垂直になるように等高線にそって配置することです。こうすることで、水の流れを抑え、土が流れてしまったり、無造作に置いてある木などが流れてしまうのを防ぎます。

土留めの作業はいつも活動している中里山というところで行いました。今回はその場所に行くのにいつもとは違う道を通って行き、小林さんという山主さんが持っているエリア付近を通り、NPO 緑のダム北相模の川田さんのお話を聞きながら少し散策をして中里山まで向かいました。山の様子や、過去にあったことなど色々とお話が聞けて勉強になりました。

そこまでいく途中でアナグマの水跡やこすりつけたような跡がありました。右がその写真です。こんなにはっきり跡があるのを初めて見てとても感動しました。



土留めを行った中里山は急斜面だったので、作業するのが結構大変でした。また、前日が雨だったため、木が水を吸って普段より重くなっていました。滑らないように気をつけながら、みんなで協力して木を運び、着々と木を並べて土留め



を行いました。1日行った甲斐あって、活動終了時には無造作に置いてあった木の山はなくなり、見た目的にもすっきりしたと感じました。今回作業をして、土留めはとても大切な作業だと改めて感じました。雨が降った時に土や木が流されやすいと危険だし、森自体にも良くないことだと思います。

土留めはとても体を動かす作業なのでとても作業をして充実した1日でした。

廣石さんの報告で「アナグマ」とありますが、これは「イノシシの水浴び場」です。この日、辿った道は、来年度に森林整備を計画している小林山と、現在作業中の中里山と相模原市・市有林の境界線に沿って点検路を兼ねて作った言わば、辿（そま）道です。その点検路作り作業中に偶然に珍しい「イノシシの水浴び場」が見つかったと言う事です。擦りつけた跡は、水浴び後、皮膚に食い付いたダニやヒルを取り除くためです。森の中には、いろんな面白い発見があって、これもまた森林活動の醍醐味というものでしょう。この日、参加者18名。（石村記）

## 若柳嵐山の森・定例活動（10月18日：第三日曜日）

報告：伊藤小夜子

「秋晴れ・充実感！」

秋晴れ・快晴の爽やかな日、新鮮な森の空気を吸って、温度も丁度良し！、今日も爽やかな学生たちが大集合、参加者78名。



NOVA と森林整備班は午前中、森林プロの「高橋林業」の高橋さんから実技練習を受ける。

「枝打ちの仕方によって、材の値打ちがグンと変わります。曲りのない均一な太さの強い材を育てるため、大切な作業です。伐採は、成るべく地面に近く10cm位の所を倒す方向を見定めて受け口、切り口を正確に切ります。私たちプロは、日に100~120本伐ります」。

高橋さんに付いてきた二人の職人さんは、素晴らしい速度でテキパキと作業をこなしていく。私達が何人掛かりで伐る大木も“サッ”と姿勢を変えて正確な方向にタチマチ伐り倒していく。凄い！。林業に就職したいと沢山の面接者が来るが残る人は、

ほんのわずかだそうで、林業の厳しさが伺えた。

角田直子さんが作業の合間にいろいろと多彩な質問を飛ばすと「オバサン、それはねえ・・・」としっかりツボを押さえた高橋さんの答えにみんな大笑い。学生たちも手応えもある良い質問をする。木は風雪に耐えて”80年で一人前”という言葉が印象に残った。

森林法から森でのルールなど経験豊かな高橋社長さんの話の中身はタップリでした。見事な実技を披露して下さった職人さん、ありがとうございました。



午後は、「小原の郷」で町からの依頼でベンチ作りをしている「木工班」の手伝いに・・・お邪魔をしに行きました。ベンチ作りを手伝っている斎藤学生・加藤学生も大坪・松尾師匠の指導よろしきを得て中々の腕



前になっている。大坪・松尾両師匠は、大きな丸太テーブルづくりに取り組んでいたが、11月3日にある「本陣祭り」では、来賓として来られる加山市長に使ってもらうとかの充実ぶりの「木工班」でした。



## 川崎ネイチャーフェスティバルの狙い

報告 石村黄仁

5年前、都市中心部・「新川崎 JR 貨物跡地 (33ha)」に防災を兼ねた森林緑地をつくる事を目標に川崎市の市民団体；「NPO 法人さいわい町づくり研究会」と共催で立ち上げた。

この活動のテーマを「① 森林と都市をつなぐ、② 木を使う事は、森を守ること」とした。

この市民活動では、約束した協働事業の最終年6年を経過した結果は、防災を兼ねた森林緑地までにはいかなかったが、毎回入場者も7千人を超える盛況で新聞各紙でもとりあげてくれた。

この土地は元来、旧国鉄時代の赤字清算対象地である。5年を経過した今、半分以上がビルマンションで埋まってしまっている。フェスティバル会場も空地の片隅に追いやられたという状況で、結果として、夢破れて退場の形で終了する。だが9月の川崎国際交流センターでのシンポジウムで、阿部川崎市長が流域をつなぐ神奈川県13市の首長によびかけ、「海・都市・森林をつなぐグリーンベルト」構想を約束してくれた。

現在当会は、水源地・旧津久井郡四町合併して緑比率（森林率）は58%になった相模原市に対して、「相模原・森林政策提言」をしており、この提言は下流・都市部の協力なしには具現化出来ない故に、阿部市長の「海・都市・森をつなごう：水源の森林と都市を繋ぐ構想」は当会の主張を継続できる形になっている。シンポでも、水源の森を守る相模原市・宮崎副市長が森側の重責を都市側にそれを訴えた。こんな繋がりのおかげを作ったのだから、勝負はこれからだと新たな戦いの準備を始めている。事務局を担当の、「NPO 法人さいわい町づくり研究会（千葉代表）」は、良くやってくれた。

## 活動報告：第6回川崎ネイチャーフェスティバル

Forest Nova 麻布大学2年 齊藤駿一

9月26日（土）に川崎ネイチャーフェスティバルが行われました。

このイベントは、緑のダム北相模が共催のイベントであり、私たちForestNovaもブースを出展しました。出展の内容としては、炭や薪を用いて火を起し、竹に生地をまいて作るパン作り。定例活動で整備した時にでた間伐材や小枝、木の実を用いてのドアプレート作り。木の時計作りの3点です。

当日は他大学の学生が15人も駆けつけてくれ、一緒にブースを行ってくれました。

どのブースも参加者にとっても人前で、活気にあふれていました。

参加者の森林についての話を聞いている時の真剣な表情や、完成した時の笑顔から今回の経験を通して多くの学びがあったのではないかと思います。

また、これらのブースでの取り組みを通して多くの参加者に『木を使うことは森を守ること』というメッセージを届けることができたと感じております。

このほかにも東洋大学のサークルと合同企画として森レンジャーの劇を行いました。

これは、子供たちに馴染みのある戦隊ものの劇を通して“現在の森林問題の現状”と

“木を使うことは森を守ること”を分かりやすく伝えることを目的に行いました。

見ていただいた親子に森林についての考え方や日常生活に少しでも変化が見られればと願っております。

最後に、企画準備や当日の経験からメンバーが学ぶことが数多くあり、また他大学の学生との交流を深めることで今後の活動の幅を広げることができるといったように、団体としても個人としても次の活動につながるものとなりました。

これからもより良い活動を目指して取り組んでいきますので、今後ともよろしくお願い致します。

### 【当日の様子】

写真左が、パン作り。 写真右が、ドアプレート作り



## 森林政策提言

NPO 法人緑のダム北相模

相模原市は、旧津久井 4 町（相模湖町・津久井町・藤野町・城山町）を合併して市域が一举に 3.6 倍、森林率が 58%になりました。相模原市にはこれまで都市公園しかなかったから、森林政策を独自に作らねばなりません。我が国の林業は、木材生産串が 18%（外材輸入が 82%）と低迷しています、森林率 7 割に達する森林国にして勿論、国が無策だという意味ではありませんが、永い森林政策の紆余曲折からして、林業構造がそうなってしまって動きが取れないでいるのです。

幸いというか、相模原市は森林については白紙の状態にあります。相模原市は、どう取り組めば良いか、あらゆる方面に調査しています。市民の声も聞きたいと当会にも連絡がありましたので、ここに時代に合った新しい森林政策を構築されんことを提案致します。

### ご 提 案

1. 持続的な森林の保全・再生には森林の経済性創出と地域社会の活性化が伴はねばならない。当会は「環境・経済・社会の調和」を主張して FSC の認証を受けていますが、林業不振の現今、相模原市の新しい森林政策は、経済性創出を視野に入れて立案頂くようご提案します。

\* 相模原森林に「環境・経済・社会の調和」を掲げる「FSC 認証の森」をご提案します。

2. 森林資源・主に木材は太陽エネルギーを蓄積し有機化合物の基礎元素・炭素（C）の塊です。

木材は主に建築に使われますが、他にも製品：パルプ・リグニン、レーヨン・テトロン・炭化材などと、大きな可能性を持つ基礎料です。新製品の開発に取り組みられんことをご提案します。

3. 鳩山新政府は、CO2 削減 25%を世界に約束しました。この声明の中で森林の CO2 固定化・森林整備は、経済を生み出すことにも言及しています。

4. 相模原市は、森林資源生産地（山梨・長野・新潟・岐阜など）と大都市消費地（神奈川・東京都 2100 万人）の接点・地の利にあります。有効に活用されんことをご提案します。

5. 当市（旧津久井耶）の森林は、わずか林道 3.9m/ha、これでは森林整備の仕様がありません。しかも危険崩落箇所 108 カ所の劣悪にあります。上流・下流周辺地区を引きつけ、漸次、森林地域の回復と経済性の創出を具現化されんことをご提案します。

\* 阿倍川崎市長からも「水源の森林と都市をつなぐ構想」が呼び掛けて来ています。また、上流の山梨県側の横内知事との合意もあります。相模原市だけでなく上流の人々に思いを寄せ、下流の人々の満足を得てこそ、相模原市の良き森林政策が成功するものであります。

6. 相続者不在、放置森林、連絡の取れない森林の公的管理をご提案します。管理方策として、「林地団地化・集約施業方式」を提案します。

7. 行政組織の「縦割りシステム」が事業の効果的な発展を阻害しています。森林事業を遂行するため「市長：特命プロジェクトチーム」を組み、軌道に乗るまで迅速・果敢に機能する体制を組みられんことを提案します。

## 活路ひらけ・・森林の保全・再生

神奈川県は、森林整備として積極的に間伐を進めている。その間伐をどう処理しているかを森林課に問い合わせたところ、「捨て間伐」にしていると。捨て間伐にする理由は、材を使ってくれる相手が居ないからだそうだ。然し、腐るとメタンの発生源になり温暖化を進める懸念がある。このような矛盾のある政策は、可能な限り早く対策を兼じなければならない。

国連食料農業機構 (FAO) によると日本の森林面積は 2490 万 ha でドイツの 2.2 倍である。然るに、木材生産量はドイツの 30%、2000 万 m<sup>3</sup> (ドイツの生産土 : 6000 万 m<sup>3</sup>) である。今、我が国にとっては作業道を整備し、高性能林業機械を導入しての木材搬出コストの削減が必要だ。我が国では、木材利用は建築にしか目が向いていないが、木材利用にはパルプ、木質バイオマスエネルギー、リグニン、セルローズ、炭化剤他、大きな利用の可能性がある。

著作権の関係から、ウェブページでは省略しました。

例えば、木質バイオマスエネルギー利用だが過日、三重の速水林業に視察の車中での討論会で齊藤学生が、「木は太陽エネルギーを蓄積している炭素の塊だから化石燃料の枯渇を心配するくらいなら、木を育て木の全てを使いきる永遠の木質バイオマスエネルギーの利用を促進した方が良いのじゃないですか」と育った。中山間地の経済的自立はエネルギーの自立で可能と言う事を行っているのだ。ドイツではバイオマス発電による電気の買い取り政策があるのだから、これを取り入れれば化石燃料の枯渇など心配しなくて済むのだ。頭の柔軟な学生が気付く森林の利用方法を、日本の林業政策の専門家が、考え付かないのが不思議だ。

当会は特別に広報活動をしている訳でもないのに、今月の若柳の森には 78 名もの参加者があった。それも高校生・大学生が 64 名であった。彼らを引き付けるのは、「都会生活で失われた”森の生命”がある」からだと思う。森には未利用のエネルギー資源が潜在している。当会・緑のダムは、この潜在エネルギーを上手に引き出しているから、人が集まるのだろう。

世界中に“moretrees 運動”を展開している「坂本龍一事務所」から、「森林の保全・再生運動の役割分担をして一緒にやらないか」と連絡があった。「どうして当会を探したか、どうして一緒に組もうというのか」を開いたら、HP で、当会が“雨でも休まず・・・・12 年間”だからだそうだ。11 月に入って話し合いに入る。

(石村記)





## 今月の臨時活動（予告）

### ①本陣祭 11月3日（祭・文化の日）

恒礼の相模湖・小原町挙げての「小原本陣祭」は、大名行列が小原本陣～町外れの運動場までを往復練り歩くねり歩く。小原の郷広場や街道筋にいろんな出店がある。

当会は、木工班が手がけたテーブル・椅子、ベンチ。今やイベントには欠かせない「緑のダム・FSC材積み木」を2万個ほど持ち込む。



### ②森林循環フェア 200911月6日（金）

～8日（日）

主催：神奈川県・環境農政部

これも恒例になった神奈川県：水源の森の保全・再生の広報活動。

県からは、「緑のダム・FSC材積み木」をおを強硬

に出品要請されて、嫌々ながら（実は、喜んで）出品する。1万個持ち込む。遊びがてら手伝いに来て下さい。

松沢知事も視察に来られるので（日時不明）、運が良ければ集合写真も。

場所；湘南藤沢モール：JR辻堂駅、北口から東京方面へ線路沿いに歩10分

### ③小原宿・お楽しみウオーク 11月22日（第四日曜日）

主催：小原宿活性化推進会議

今の段階やは出品物は未定だが、ネットワークの「NPO法人みんなの森」の畠山代表に何か、面白いものを頼む予定。9：30、小原集会場こ集合、10時～

活動のモットー：急がず、楽しく、無理せず、休まず、ボチボチと・・・  
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名称：NPO法人緑のダム北相模

事務局：154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

発行人：NPO 緑のダム北相模・運営委員会：03-3411-1636

H P：http://midorinodam.jp

E-mail：info@midorinodam.jp

協働団体：神奈川県（政策部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県央地域県政総合センター）セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）毎日新聞社（水と緑地球環境本部）JFEメカニカル

ご支援の団体：WWF・japan, イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、生命の森宣言・東京、東海大付属・望星高校